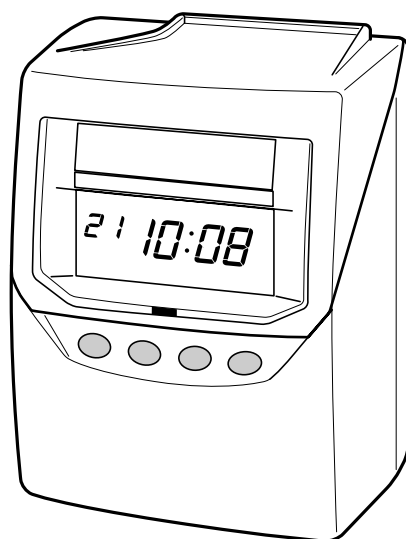


クォーツ・タイムレコーダ

QR-350

取扱説明書



SEIKO

はじめに

このたびは、弊社タイムレコーダーをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。タイムレコーダーを安全に正しくご使用いただくために、お使いになる前にこの取扱説明書を、必ずお読みください。またお読みになった後は、いつでもお使いいただけるように大切に保管してください。

1. 本書の内容につきましては、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
2. 本書の内容につきましては、万全を期しておりますが、万一お気づきの点、ご不明の点などがありましたら、ご購入の販売店までお問い合わせください。
3. 運用に際しましては、本書の内容を十分に理解いただいた上でご活用ください。
4. お客様が本機を運用された結果の影響につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承ください。
5. 本書の内容の一部のあるいは全部を、無断で複写することは禁止されております。



目次



1.安全に正しくお使いいただくために	1
2.特長	3
3.ご使用になる前に	4
付属品をお確かめください	4
各部の名称	4
タイムレコーダー内部のパッドを外してください	5
壁掛けの方法	6
設置について	6
4.日常の操作	7
印字欄、印字段(印字行)とは	7
表示されている印字欄に打刻します	8
打ちたい印字欄を変えるには……	9
5.設定のしかた	10
設定の準備	10
締日の設定	11
時刻の設定	12
日付の設定	13
改行時刻の設定	14
印字パターンの設定	15
サマータイムの設定	16
印字欄の自動移動プログラムの設定	19
リセットについて	23
6.こんなときには	24
エラー番号が表示されたら	24
故障かなと思ったら	24
7.リボンの交換	25
8.仕様一覧	27
9.別売付属品および消耗品	28






1.安全に正しくお使いいただくために







本書は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、守っていただきたい事項を示しています。



絵表示について

本製品の取扱説明書及び製品への表示では、製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、感電する「危険」があることを示します。	 この表示は、必ず実行していただきたい内容を示しています。
 この表示は、分解してはいけないという、「禁止」を示しています。	 この表示は、必ず電源プラグをコンセントから抜いていただきたいことを示しています。
 この表示は、してはいけない、「禁止」行為であることを示します。	

 警告	
 この機器を分解しないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。	
 この機器を改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。	
 万一、発熱していたり、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態が発生した場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。	
 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。またタコ足配線をしないでください。火災、感電のおそれがあります。	
 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、引っぱったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災、感電のおそれがあります。	

	万一、異物(金属片、水、液体など)が機器の内部に入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

 注意	
	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
	この機器の上に水などの入った容器または金属物をおかないでください。 こぼれたり、中に入った場合、火災、感電の原因となることがあります。
	湿気やほこりの多い場所には置かないでください。 火災、感電の原因となることがあります。
	調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。 火災、感電の原因となることがあります。
	プラグを抜くときは電源コードを引っ張らないでください。 (必ずプラグを持って抜いてください) コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。
	本機器を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。
	プリンターのヘッド部分には、触れないよう、ご注意ください。 けが、火傷の原因となることがあります。
	電源プラグは奥まで確実に挿入してください。 火災、感電の原因となることがあります
	タイムカードの挿入口には指定のタイムカード以外は差し込んだり、落としたりしないでください。 火災、感電の原因となることがあります。
	万一、この機器を落としたり、ケースを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。

— 日頃のお手入れについて —

ケースが汚れたときは電源プラグをコンセントから抜き、ほこりや汚れを乾いた布などで掃除してください。

2. 特長

★電源ONですぐ使えます。

年月日・曜日・時刻はセット済み。コンセントに差し込むだけで、すぐお使いいただけます。

★使い方は、タイムカードを入れるだけ。とっても簡単です。

日々ご使用いただくものなので、使い方もタイムカードをタイムレコーダーに入れるだけです。

タイムカードは自動引き込み、時刻を印字した後自動排出の簡単操作です。

また、時間指定による出勤・退勤の印字欄を設定すれば、印字欄の選択もボタン操作が不要です。

★見やすい紫色の印字。大きな印字も打てます。

タイムカードに打たれる印字は見やすい紫色です。また、時刻のみの大きな印字を選ぶことにより出勤、退勤の時刻確認もともしやすくなります。

★1日に4回まで印字ができます。

1日に4回まで印字ができるので、休憩や外出なども、しっかり記録します。

★印字パターンは4種類から選べます。

印字パターンは「日付＋時刻」、「曜日＋時刻」、「大きな文字の時刻」、「AM／PMの時刻」の4種類。週単位で確認したい場合は「曜日＋時刻」を、時刻をハッキリ確認したい場合は「大きな文字の時刻」というように、お客様のご都合に合わせた印字パターンが選択できます。

★打ちたい印字欄の設定ができるので、日々ボタン操作が不要です。 (印字欄の自動移動プログラム)

出勤・退勤あるいは外出など時間設定すれば、ご希望の印字欄に日々のわずらわしいボタン操作なしに印字することができます。

★コンパクトなボディに大型デジタル時計表示です。

コンパクトなボディなので置き場所を選びません。しかも大型のバックライト付きデジタル表示を装備。時刻はもちろん日付や曜日もわかります。時計、カレンダーとしてもお使いいただけます。

★自動サマータイム機能も搭載しています。

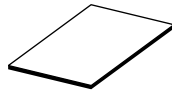
サマータイムが導入されても安心。自動サマータイム機能がしっかり対応します。

3. ご使用になる前に

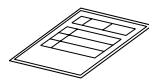
付属品をお確かめください



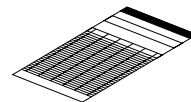
壁掛け取り
付けネジ2本



取扱説明書(本書)

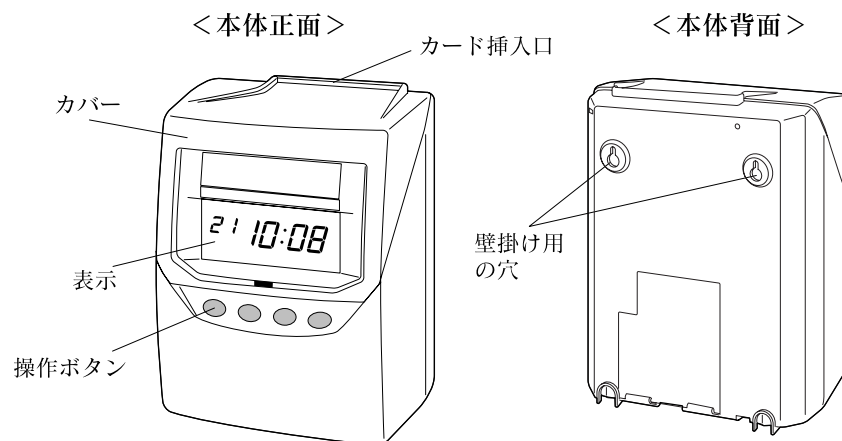


保証書

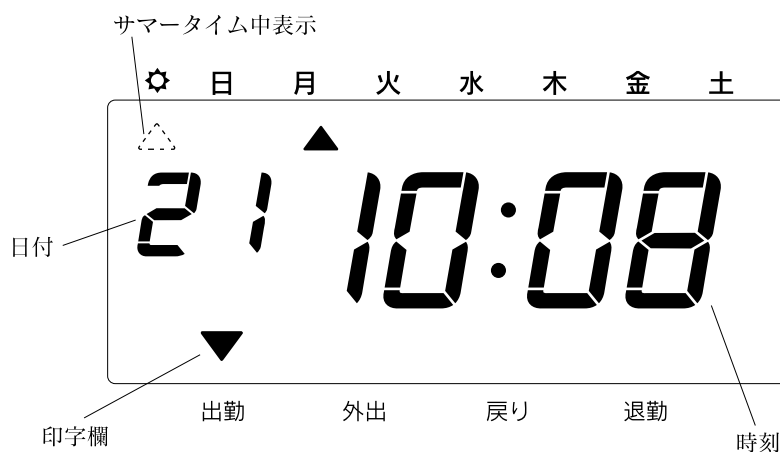


タイムカード (SEIKO Cカード)
1枚

各部の名称



<表示>



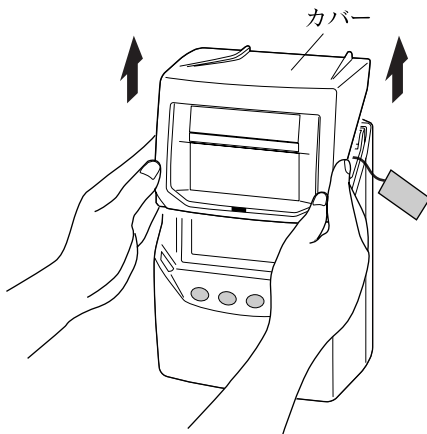
タイムレコーダ内部のパッドを外してください

タイムレコーダ内部には、輸送時の振動などから製品を保護するためのパッドが入っています。

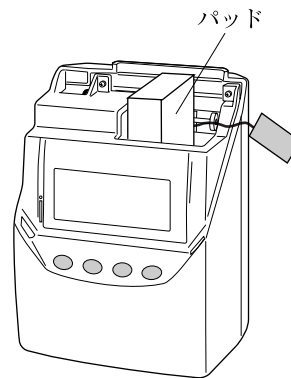
! 電源を入れる前に必ずパッドをタイムレコーダから抜いてください。

ご使用时、パッドは不要です。

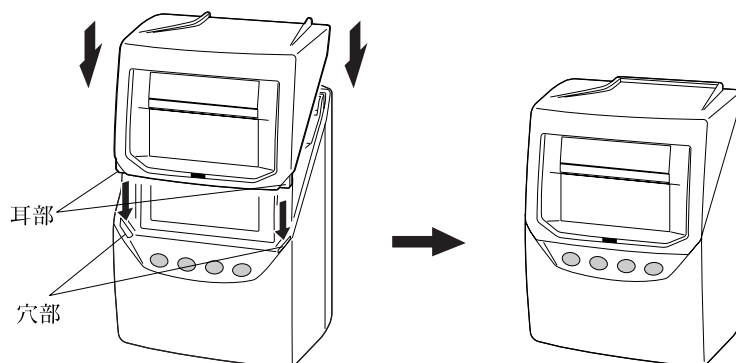
1 “カバー”の左右を2ヶ所を持ち、上に引き上げます。



2 “パッド”を抜きます。



3 “カバー”の下部両側の“耳部”を本体の“穴部”に真上から差し込みます。



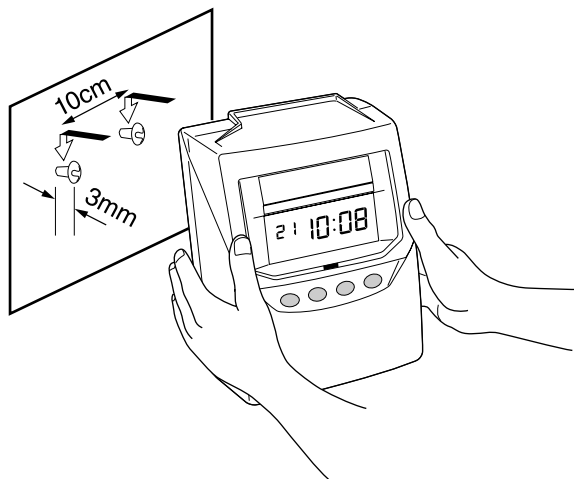
壁掛けの方法

付属のネジを使って、タイムレコーダを壁に掛けることができます。壁に掛けて使用する場合には、次のようにしてください。

- 1 付属の壁掛け取り付けネジ2本を、横10cmの間隔で壁に取り付けます。このときネジの頭を3mmほど出して、取り付けてください。
- 2 タイムレコーダ背面の壁掛け用の穴を使って、ネジに引っかけます。



同梱されているネジは木造の厚い壁や木の柱でご使用されることを前提としており、それ以外の条件の場所ではご使用にならないようにしてください。タイムレコーダが落下してお客様がケガをされたり、また本体の故障の原因となるおそれがあります。



設置について

次のような場所でのご使用は避けてください。

- 湿気やほこりの多い場所
- 直射日光のあたる場所
- 振動の激しい場所または常時振動が発生する場所
- 気温が -5°C 以下や、 45°C 以上の場所
- 化学薬品やオゾンなどの影響をうける場所

4. 日常の操作

時刻や縮日などタイムレコーダが動作するために必要な事柄は、あらかじめ設定してありますのでパッドを外した後**電源を入れてすぐお使いいただけます。**

❗ 前述の「3.ご使用になる前に」を必ずお読みください。

タイムレコーダの使い方はきわめて簡単です。タイムカードを挿入していただきますと、カードは本体に自動引込みされ、印字後排出されます。

❗ カード挿入口にクリップ等の金属は絶対に入れないでください。また、カードを無理に押し込まないでください。故障の原因となる恐れがあります。

そのままの状態ですぐにお使いいただけますが、縮日などが実際にご使用いただく場合と異なるときには、後述の「5.設定のしかた」をご参照ください。

印字欄、印字段 (印字行) とは

印字欄とは……

印字欄とはタイムカードの横方向の印字するマス目のことを言います。

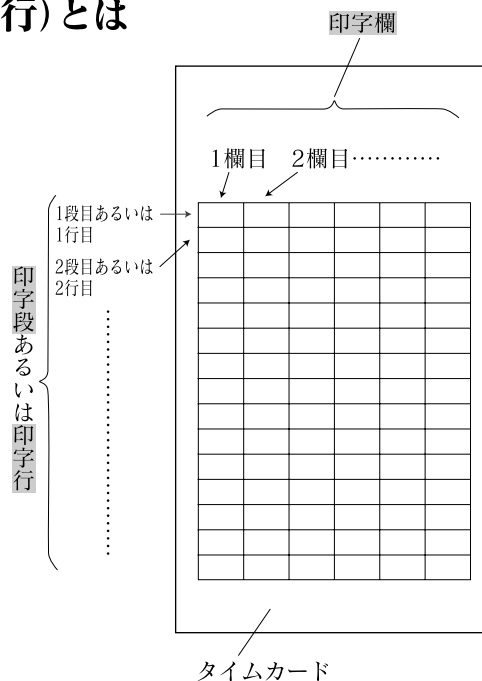
通常、左のマス目より1欄目、2欄目……と呼び、1日の中で、出勤や退勤などの印字する位置を変えたい場合に利用します。

本製品は1～4欄目まで印字することができます。

印字段あるいは印字行とは……

印字段 (行) とは、タイムカードの縦方向の印字するマス目のことを言います。

通常、上のマス目より1段目、2段目……あるいは1行目、2行目……と呼び、日が変わると1つ下の段 (行) に印字します。



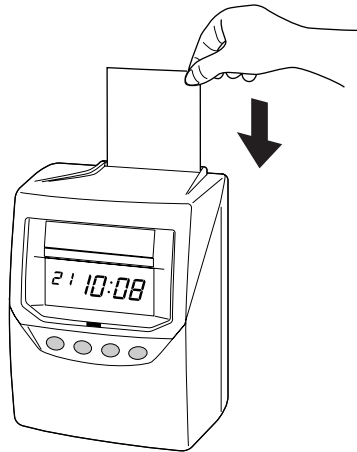
表示されている印字欄に打刻します

タイムレコーダは表示の印字欄指示の“▼”が指している位置(印字欄)に印字します。

例 : 1欄目に印字する場合

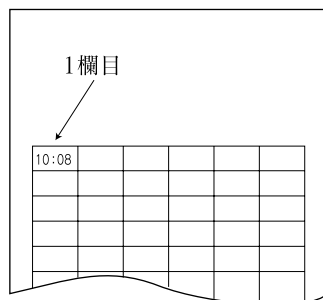


1 表示の印字欄指示の“▼”がいちばん左の“出勤”のところにあることを確認します。



2 タイムカードをタイムレコーダにかるく入れます。カードは自動的にタイムレコーダに引き込まれます。

印字後、自動的にカードはタイムレコーダから上がってきます。



3 印字は1欄目に打たれます。

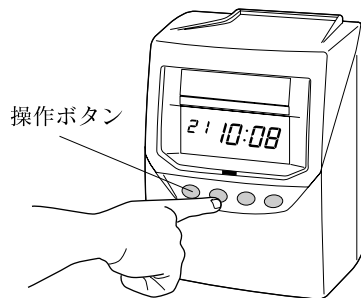
タイムレコーダーは1日に4回(4欄分)印字することができます。

打ちたい印字欄を変えるには……

印字欄を変更する場合は、“操作ボタン”を押してからタイムカードを入れます。

例：1欄目から2欄目に印字位置を変えて打つ場合

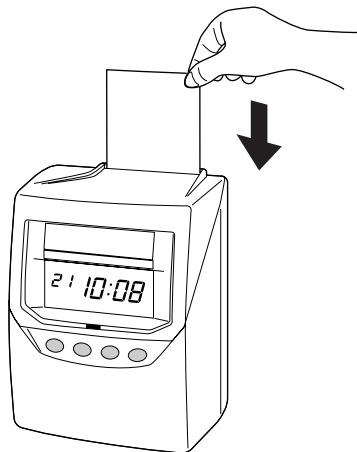
- 1 左から2番目の“操作ボタン”を押します。



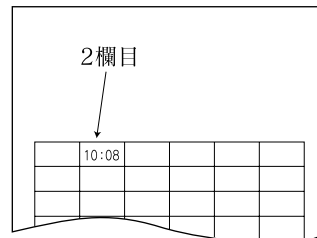
- 2 表示の印字欄指示の“▼”が図のように移動します。



- 3 タイムカードをタイムレコーダに入れます。



- 4 印字は2欄目に打たれます。



以降次の改行時刻までは、違う印字欄の“操作ボタン”を押さないかぎり2欄目に印字します。
改行時刻：「改行時刻の設定」の項をご参照ください。

ボタン操作なしに印字欄を変えるには“印字欄の自動移動プログラムの設定”の項をご参照ください。

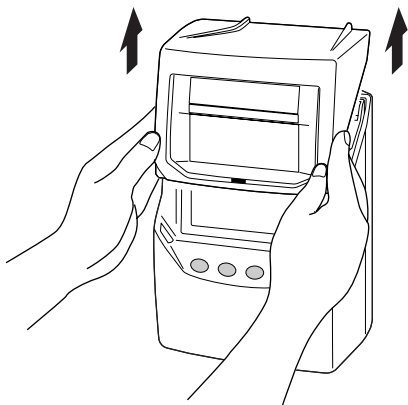
5. 設定のしかた

設定の準備

締日や時刻など設定する前に、“カバー”を外して設定できる状態にします。

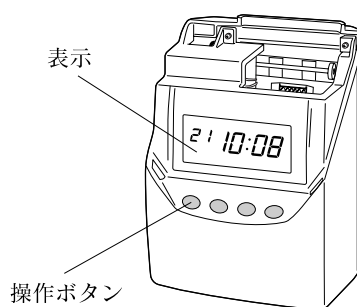
! 設定する時は、コンセントに電源プラグをさしこみ通電した状態で行ってください。

- 1 “カバー”の左右2ヶ所を持ち上に引き上げます。

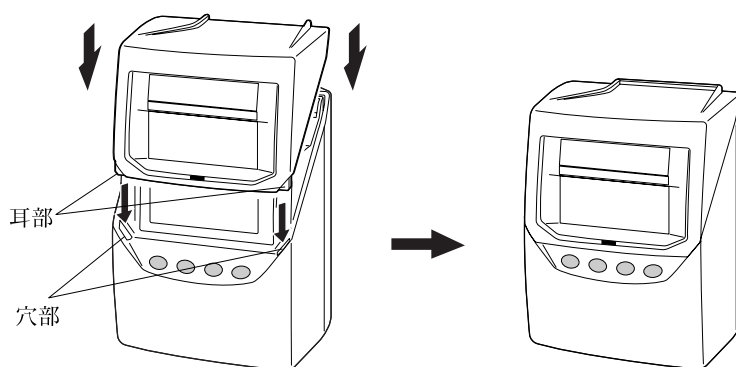


- 2 “表示”を見ながら“操作ボタン”を使うことにより設定ができます。

各設定の詳細については次ページ以降をご覧ください。



- 3 設定終了後は“カバー”の下部両側の“耳部”を、本体の“穴部”に真上から差し込みます。

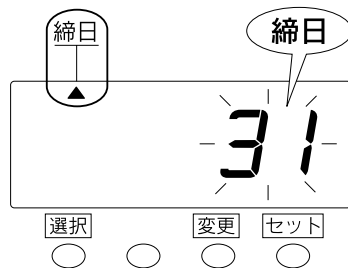


締日の設定

工場出荷時の設定は月末締めになっています。締日が月末と15日以外の場合は締日を変更します。

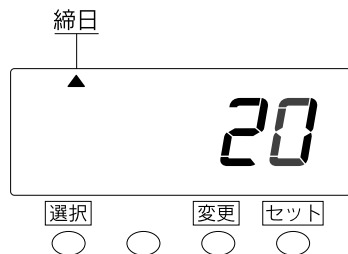
大の月、小の月によらず月末締めの場合は締日「31日」のままでご利用いただけます。
15日締めの場合には締日“31”にしてカードの赤い面よりご利用ください。

例 20日締めにする場合



- 1 選択ボタンを押して、表示の上側“▲”を左から1番目の“締日”に合わせてください。

初期値は“31”になっています。

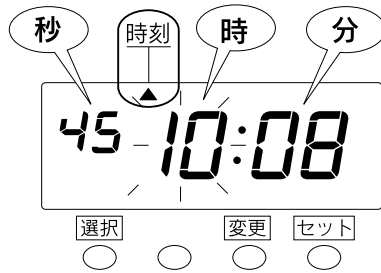


- 2 20日締めに変更します。
変更ボタンを押して、“20”日に合わせ、次にセットボタンを押します。
これで20日締めが設定できました。このとき表示の点滅は点燈に変わります。

時刻の設定

時刻を変更するときに設定してください。

例 10時8分45秒を10時9分15秒に変更する場合



- 1 選択ボタンを押して、表示の上側“▲”を左から2番目の“時刻”に合わせてください。

点滅している数字が変更できます。

- 2 例では“時”は10時のまま変更しませんので、このままセットボタンを押します。これで10時が設定できました。このとき表示の点滅は“時”から“分”に移ります。また、“秒”は“00”秒になります。

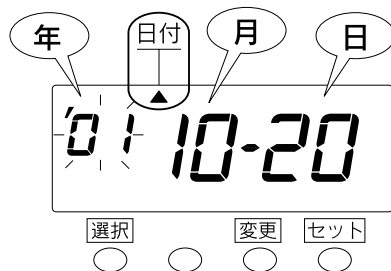
- 3 時刻の“分”を変更します。
(例 8分→9分)
変更ボタンを押して、“09”分に合わせ、次にセットボタンを押します。これで9分が設定できました。このとき表示の点滅は“分”から“秒”に移ります。

- 4 時刻の“秒”を変更します。
(例 15秒)
変更ボタンを押して“15”秒に合わせ、次にセットボタンを押します。これで15秒が設定できました。このとき表示の“秒”の点滅が点燈に変わり時刻の変更設定が終了しました。

日付の設定

日付を変更するときに設定してください。

例 2001年10月20日を同年同月21日に変更する場合



- 1 選択ボタンを押して、表示の上側“▲”を左から3番目の“日付”に合わせてください。
年は西暦下2桁で表示されます。

点滅している数字が変更できます。



- 2 例では、“年”は2001年のまま変更しませんので、このままセットボタンを押します。これで2001年が設定できました。このとき表示の点滅は“年”から“月”に移ります。



- 3 例では“月”は10月のまま変更しませんのでこのままセットボタンを押します。これで10月が設定できました。このとき表示の点滅は“月”から“日”に移ります。



- 4 “日”を変更します。
(例 20日→21日)
変更ボタンを押して“21”日に合わせ次にセットボタンを押します。これで21日が設定できました。このとき表示の“日”の点滅が点燈に変わり日付の変更設定が終了しました。

改行時刻の設定

工場出荷時の設定は午前5時(5:00)になっています。

「改行時刻」とは、タイムカードの印字の段が1段さがって次の日の段に切り替わる時刻のことです。夜勤などで午前0時を過ぎ日付が翌日が変わってから退勤する場合でも「改行時刻」を設定することにより出勤、退勤の印字をカードの同じ段に打たせることができます。

例えば、夜勤をする人がある月の24日午後10時(22時)に出勤し翌日の25日午前6時に退勤する場合は、「改行時刻」を午前6時以降に設定しておけば出勤、退勤が同じ段となります。以下にこの人を例に印字結果を示します。

- 「改行時刻」が工場出荷時設定の午前5時で、午前6時に退勤する場合
(「改行時刻」が退勤時刻より前の場合)

出勤、退勤で印字段が変わってしまう

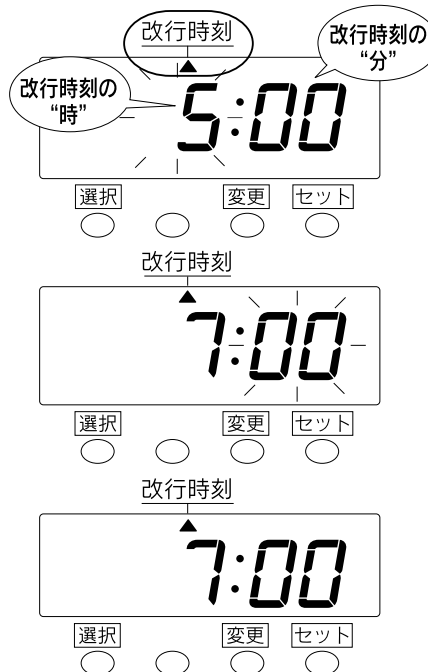
22:00							
6:00							

- 「改行時刻」を午前7時(7:00)と設定し、午前6時に退勤する場合
(「改行時刻」が退勤時刻より後に設定した場合)

出勤、退勤共に同じ印字段となる

22:00	6:00						

例 改行時刻 午前5時00分を午前7時00分に変更する場合



- 1 選択ボタンを押して、表示の上側“▲”を左から4番目の“改行時刻”に合わせてください。

点滅している数字が変更できます。

- 2 改行時刻の“時”を変更します。
(例 5時→7時)
変更ボタンを押して、“7”時に合わせ、次にセットボタンを押します。これで7時が設定できました。
このとき表示の点滅は“時”から“分”に移ります。

- 3 例では“分”は“00”分そのまま変更しませんので、このままもう一度セットボタンを押します。
これで“00”分が設定できました。
このとき表示の“分”の点滅が点燈に変わり、改行時刻の変更設定が終了しました。

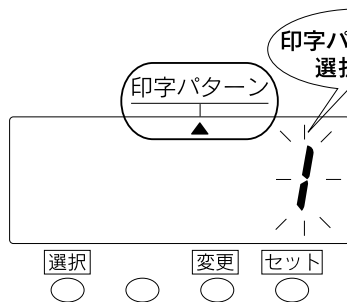
印字パターンの設定

タイムカードに印字するパターンは次の4種類の中から選択できます。

印字パターンの 選択番号		21日(月)10時8分 の印字例
1. 日付+時:分	→	☾10:08
2. 曜日+時:分	→	月10:08
3. 時:分(大きな印字)	→	10:08
4. AM/PM+時:分	→	Am10:08

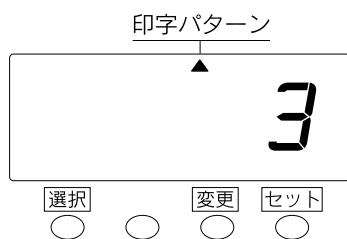
工場出荷時の設定は **日付+時:分** になっています。

例 印字パターン **日付+時:分** を **時:分(大きな印字)** に変更する場合



- 1 選択ボタンを押して、表示の上側“▲”を左から5番目の“印字パターン”に合わせてください。

初期値は選択番号“1”の日付+時:分になっています。



- 2 印字パターンを **時:分(大きな印字)** に変更します。
変更ボタンを押して、選択番号“3”の **時:分(大きな印字)** に合わせ、次に **セット** ボタンを押します。
これで **時:分(大きな印字)** が設定できました。このとき表示の点滅は点燈に変わります。

サマータイムの設定

日本国内でサマータイムが導入されたときに
設定してください。

タイムレコーダのサマータイム機能について

① サマータイムの実行時間

サマータイム開始日の午前2時になると自動的に時刻が1時間
進み午前3時となり、サマータイム終了日午前2時になると自
動的に時刻が1時間戻り午前1時となるようになっています。

② サマータイムの実行日

例えば

開始日 2001年4月1日(日曜日)

終了日 2001年10月28日(日曜日)

と設定した場合、タイムレコーダーは開始日を4月の最初の日
曜日、終了日を10月の最後の日曜日と記憶します。一度設定
していただければ翌年からのサマータイムの設定はタイムレ
コーダーが自動的に

開始日 4月の最初の日曜日

終了日 10月の最後の日曜日

と更新しますので、その後の設定は不要です。

工場出荷時は、サマータイム開始日、サマータイム終了日の設定はされていません。

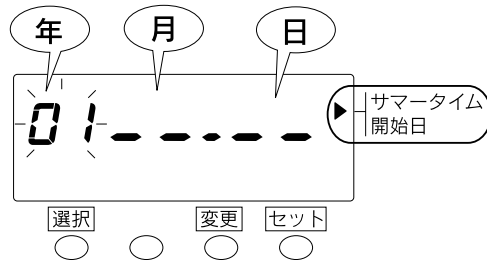
サマータイムの設定は、その年の開始日と終了日の月日を入力することにより行
います。

次の例でサマータイムの設定方法を説明します。

例 今日(現在日) 2001年1月29日(月)
サマータイム開始日 2001年4月1日(日) <4月最初の日曜日>
サマータイム終了日 2001年10月28日(日) <10月最後の日曜日>

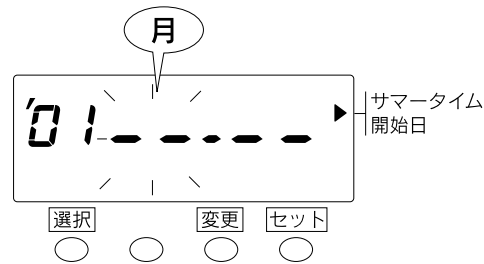
サマータイム開始日の設定

例 開始日：4月の最初の日曜日の場合
(2001年4月1日の場合)

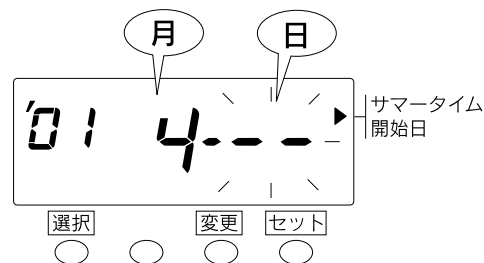


- 1 選択ボタンを押して、表示の“▲”を右横の“サマータイム開始日”に合わせてください。

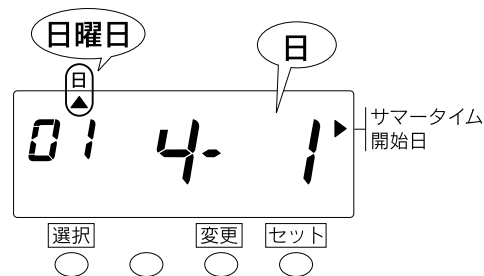
点滅している数字が変更できます。



- 2 例では、“年”は2001年のまま変更しませんので、このままセットボタンを押します。このとき表示の点滅は“年”から“月”に移ります。



- 3 サマータイム開始の“月”を設定します。変更ボタンを押して、“4”月に合わせ、次にセットボタンを押します。これで4月が設定できました。このとき表示の点滅は“月”から“日”に移ります。

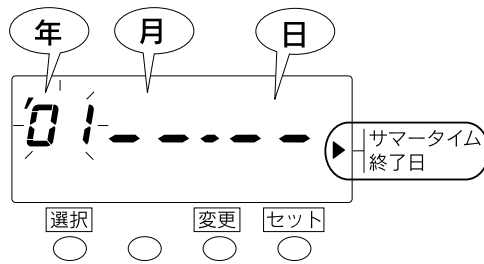


- 4 サマータイム開始日の“日”を設定します。変更ボタンを押して“1”日に合わせ、次にセットボタンを押します。これで1日が設定できました。このとき表示の“日”の点滅が点燈に変わり日曜日の下に“▲”が点燈します。これでサマータイム開始日の設定が終了しました。

サマータイム終了日の設定

例 終了日：10月の最後の日曜日の場合
(2001年10月28日の場合)

サマータイム開始日と同じ方法で設定します。



- 1 選択ボタンを押して、表示の“▲”を右横の“サマータイム終了日”に合わせてください。

点滅している数字が変更できます。

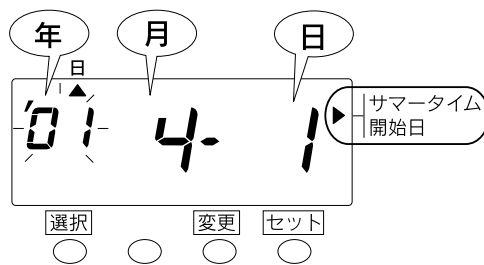


- 2 サマータイム開始日と同じ方法で終了日の年月日“01 10-28”を設定します。

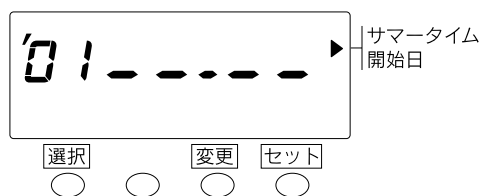
サマータイムを取り消す場合

一度設定されたサマータイムを取り消す場合は“サマータイム開始日”の“月”の表示を“--”とすることによりサマータイムは無効になります。

例 “サマータイム開始日”の2001年4月1日(日)を変更し
サマータイムを取り消す場合



- 1 選択ボタンを押して、表示の“▲”を右横の“サマータイム開始日”に合わせてください。



- 2 “月”を“--”に合わせセットボタンを2回押してください。表示は左図のようになり、サマータイムは無効になります。

印字欄の自動移動プログラムの設定

印字欄の自動移動プログラムとは出勤時や退勤時の印字をボタン操作なく、時間帯によりタイムカードのどの印字欄(横方向の印字するマス目)にするかあらかじめセットしておくための設定プログラムのことをいいます。よってこのプログラムを設定することにより、**印字欄を時間帯ごとに自動切替**することができます。タイムレコーダは1日に4欄分印字することができます。

工場出荷時には印字欄の自動移動プログラムは設定されていません。1欄目に印字するようになっています。

===== 次の例で印字欄の自動移動プログラムを説明します。 =====

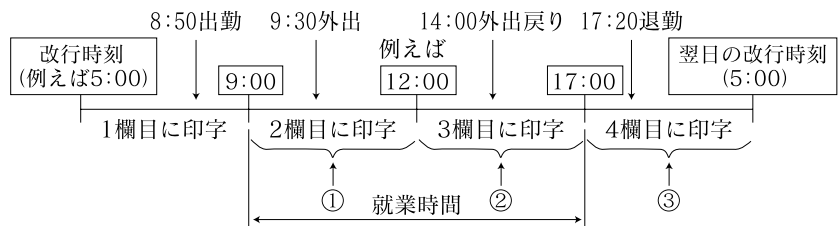
例えば、ある会社の就業時間が9:00~17:00で、ある人の1日のスケジュールが
 8:50 に出勤
 9:30 に出外
 14:00 に出外戻り
 17:20 に出勤



の場合などは、タイムカードに図のようにそれぞれの印字欄に印字をするような設定をすると便利です。

この場合に便利なプログラムのタイムテーブルを作ってみます。

タイムレコーダーでの1日は、タイムカード縦方向の印字する位置(印字段)が切り替わる「改行時刻」から始まります。「改行時刻」の詳細は改行時刻の設定のページを参照ください。



次に、この例のプログラム表を作成してみます。

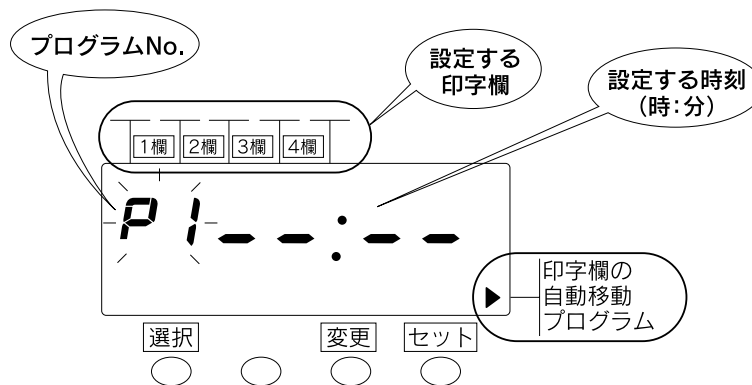
プログラムを設定しない時間帯は、1欄目に印字します。

	プログラムNo.	時刻	印字欄
①	P 1	9:00~	2 欄
②	P 2	12:00~	3 欄
③	P 3	17:00~	4 欄

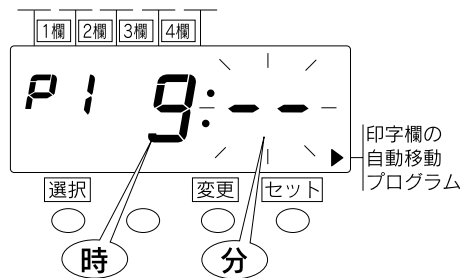
■プログラムは9個(P9)まで設定できます。

それではこの例にしたがって設定の手順を説明します。

- 1 選択ボタンを押して、表示の“▲”を右横の“印字欄の自動移動プログラム”に合わせてください。デジタル表示部は図のようになり、左側にプログラムNo.が表示され点滅します。



プログラムNo. P1



- 2 プログラム表のP1の内容を設定します。

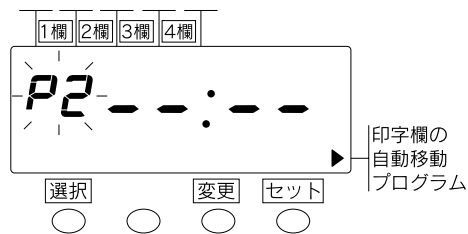
(1) セットボタンを1回押して、時刻の“時”を設定します。
変更ボタンを押して“9”時に合わせ、次にセットボタンを押します。このとき表示の点滅は“時”から“分”に移ります。

(2) 時刻の“分”を設定します。
変更ボタンを押して“00”分に合わせ、次にセットボタンを押します。このとき表示の点滅は1欄の“▲”に移ります。



- (3) 指定“印字欄”を設定します。
変更ボタンを押して2欄に“▲”を合わせ、次に**セット**ボタンを押します。これにより表示の点滅が点燈に変わり、P1の“9:00から2欄目に印字”の設定ができました。

プログラムNo. P2



3 プログラム表のP2の内容を設定します。

- (1) **セット**ボタンを1回押して、表示の“P1”を点滅させます。次に**変更**ボタンを押して“P2”の表示にします。



- (2) プログラムをP1のときと同じように左図のように合わせます。印字欄の指定は3欄にします。



4 プログラム表P3の内容を設定します。

- プログラムP2のときと同じように左図のように合わせます。印字欄の指定は4欄にします。

以上で印字欄の自動移動プログラムの設定は終了しました。

プログラムの内容を確認するには

選択ボタンを押して、表示の“▲”を“印字欄の自動移動プログラム”に合わせ、変更ボタンを押すごとに“P1”→“P2”→“P3”……のようにプログラムの内容が確認できます。

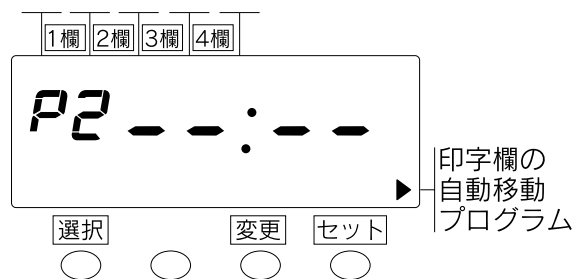
プログラムの内容を変更するには

選択ボタンを押して、表示の“▲”を“印字欄の自動移動プログラム”に合わせ、変更ボタンを押して変更したいプログラムNo.を点滅させます。設定したときと同じように変更ボタン、セットボタンを押して、そのプログラムを設定しなおしてください。

プログラムを消すには

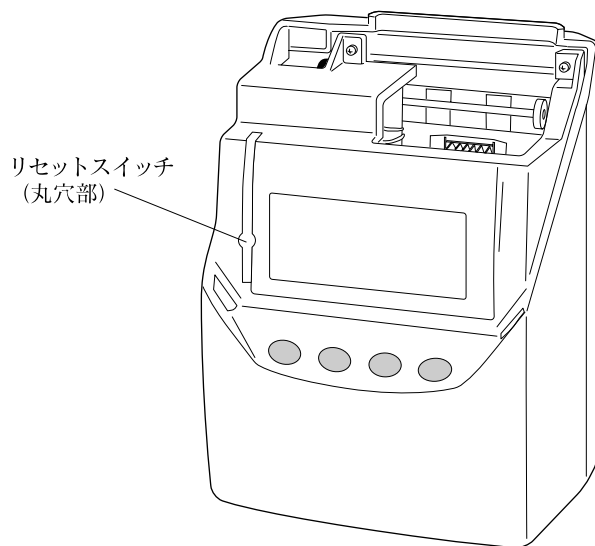
選択ボタンを押して、表示の“▲”を“印字欄の自動移動プログラム”に合わせ、変更ボタンを押して消したいプログラムNo.を点滅させます。セットボタンを1回押して、時刻の“時”を点滅させ、変更ボタンを押すことにより“—”表示に合わせます。次にセットボタンを3回押すことにより表示は下図のようになりプログラムが消却できます。

例 プログラム No. P2 を消す場合



リセットについて

すべての設定を初期の状態(工場出荷時の状態)に戻したいときには、先の細いものでリセットスイッチを押してください。



リセットすることにより、お客様が設定した内容は消えてしまいます(初期の状態に戻ります)ので注意してください。
設定をしない場合は「設定のしかた」をご参照ください。

6. こんなときには

エラー番号が表示されたら

以下を参照して正しい操作を行ってください。

番号	エラー内容	対策
E-01	メモリーバックアップ用リチウム電池の容量不足です。	販売店にご連絡ください。
E-03	挿入したタイムカードの表裏が間違っています。	タイムカードの表裏を反対にして挿入してください。
E-05	タイムカードを正しく引き込むことができません。	タイムレコーダーにタイムカードが詰まっているか確認してください。または、タイムカードを挿入し直してください。
E-15	タイムカードを正しく引き込むことができません。 (カードセンサーエラー)	タイムレコーダーにタイムカードが詰まっているか確認してください。または、リボンセットがきちんとセットされているかどうか確認してください。
E-30	印字ができません。 プリンタのモータ、またはホームポジションセンサーに異常があります。	確認が済みましたら、カバーを閉じてください。 それでもエラー番号が表示される場合は、販売店にご連絡ください。
E-37	タイムカードを正しく引き込むことができません。 タイムカードを送るモータ、またはセンサーが正しく動きません。	
E-38	印字ができません。 プリンタのヘッドのモータ、またはセンサーが正しく動きません。	

故障かなと思ったら

● 全く動作しない

電源コードはコンセントに正しく差し込んでありますか？

● 印字しない

リボンが正しくセットされていますか？

● 印字位置が合わない

縮日、改行時刻はあっていますか？

タイムカードが折れたり、曲がったりしていませんか？

回復しない場合にはご購入の販売店へご連絡ください。

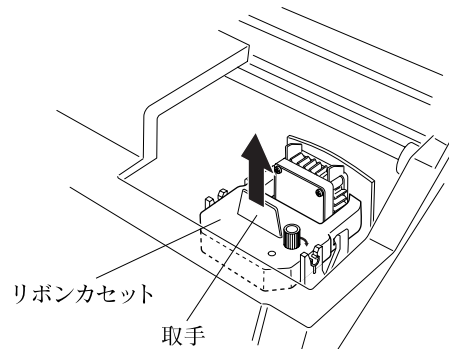
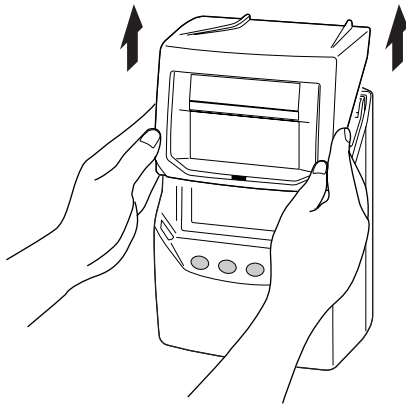
7. リボンの交換

リボンの交換方法

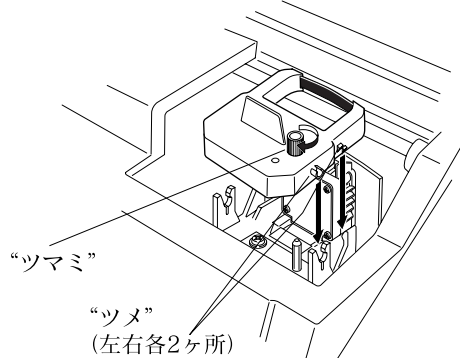
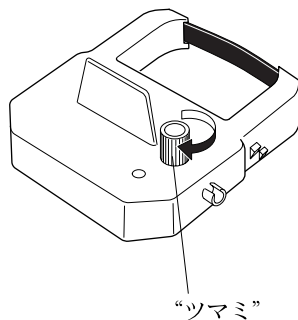
❗ 必ず電源を入れた状態で行ってください。

タイムカードに印字される文字がうすくなった場合は、リボンカセットを交換してください。あらかじめ装着されているリボンカセットは工場出荷時の機能検査用(モニタ印字リボン)です。ご使用時一部うすく印字される場合がありますのでご了承ください。

- 1 “カバー”の左右2ヶ所を持ち、上に引き上げます。
- 2 古い“リボンカセット”の“取手”を持ちカセットを上引き上げます。



- 3 新しい“リボンカセット”の“ツマミ”を矢印の方向に回して、リボンのたるみをとります。
- 4 “リボンカセット”を本体に図のように装着します。
左右各2ヶ所の“ツメ”がパチッと音がするまで押し込みます。入れづらいときには“ツマミ”を回しながら入れてください。

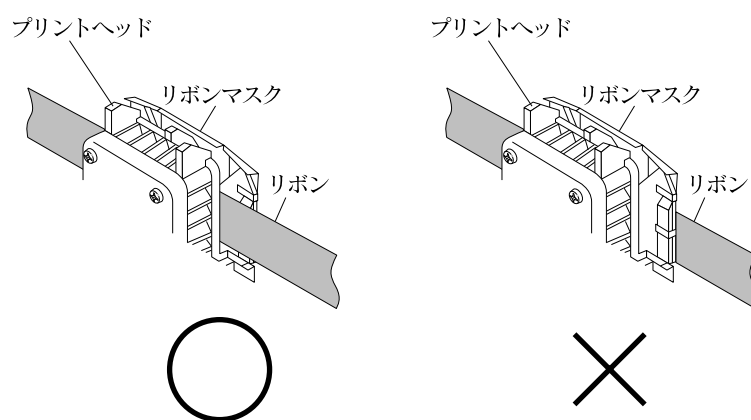


5 リボン交換時のご注意

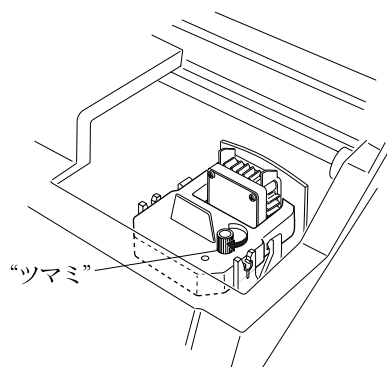
新しいリボンカセットを入れるときには、次のことに注意してください。

下図のようにリボンが、プリントヘッドとリボンマスクの間に入るようにリボンカセットを入れてください。(左側の図)

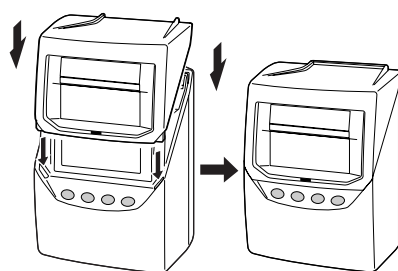
リボンをリボンマスクの奥側にいれてしまうと、正常に印字できません。(右側の図)



6 装着した“リボンカセット”の“つまみ”を矢印の方向に回して、リボンのたるみをとります。



7 “カバー”の下部両側の“耳部”を本体の“穴部”に真上から差し込みます。



8.仕様一覧

時計精度	月差±15秒以内(常温)
カレンダー機能	～2098年 閏年、大小月、曜日は自動判定
印字方式	ドットインパクト方式
カード機構	自動引き込み・自動排出
タイムカード	SEIKO C、C-20、C-25、C-31カード(両面6欄)
メモリー保持機能	工場出荷時より停電累計時間5年間
プログラム	印字欄の自動切替
使用環境	温度: -5～45℃ 湿度: 20～80%Rh 結露なし 温度が5℃以下の場合には正常に動作しますが、印字濃度、 液晶表示の反応は通常使用時に比べて劣ります。
外形寸法	幅160×高さ205×奥行き128mm
質 量	約1.5kg
消費電力	通常2W、最大13W

タイムカードは指定のCカードをご使用ください。特に折りたたみ方式などの特殊カードを使用しますと、機能障害が生じることがあります。

9. 別売付属品および消耗品

あらかじめ日付が印刷されたカードもあります。
締日に合わせてご利用ください。

●タイムカード

締日	日付なし	20日締	25日締	月末締
カード名	C	C-20	C-25	C-31

C-31は15日締めにも、締日の設定を“31”にしてカードの裏面(赤い面)よりご利用いただけます。

●リボンカセット

QR-350用リボンカセット

●カードラック

CR-15 : 15人用
CR-30 : 30人用
CR-50 : 50人用